

DREAM



令和2年度
チャレンジクラブだより第5号
発行日 令和3年3月1日
教育委員会地域の元気づくり課
(TEL83-5407)

第5講 「クラシックを遊ぶ音楽実験室鑑賞」活動報告

2月23日(火)実施のチャレンジクラブ「クラシックを遊ぶ音楽実験室鑑賞」は、東神楽小1名、東聖小3名、計4名の参加者を得て実施しました。当日の子どもたちの様子を報告します。

杉浦哲郎氏（ピアノ）と岡田鉄平氏（バイオリン）は、10年以上デュオを組みクラシックの名曲と様々な音楽や環境音を融合させ、聴くだけでなく観て楽しいコンサート活動を通して、クラシック音楽のよさを伝えているそうです。「クラシックを遊ぶ」とは、どういうことなのか思いを巡らせているうちに演奏が始まりました。

どんな曲が演奏されたのかお知らせします。演奏曲などをお知らせすることで「クラシックを遊ぶ」意味が分かります。

- ・くるみ割り人形+おどるボンポコリン
- ・剣の舞+ずいずいずっころばし
- ・アイネクライネナハトムジーク+紅蓮花
- ・運命+犬のおまわりさん
- ・美しく青きドナウ→3拍子を4拍子にすることで雰囲気随分変わる。途中、火曜サスペンス劇場のテーマ曲にも変化
- ・パトカーや救急車のサイレン音をバイオリンで表現、不協和音を作ることで、踏切やfaxの送受信の音にも
- ・G線上のアリアでは、ビブラートの違いを表現しました。それも前川清、西城秀樹、浅田美代子、美輪明宏などのビブラートを



模して。実に似ていました。（子どもたちはわからなかったと思いますが）

- ・動物の謝肉祭「白鳥」を編曲し、犬、馬、うぐいす、ゴジラ、そしてウルトラマンへと変身させていきました。
- ・そして、いちばん盛り上がったのが「トムとジェリー」の映像にピアノとバイオリンでストーリーを作り上げたことです。会場内は大喝采でした。
- ・最後は、ニューイヤーコンサートの定番曲「ラデツキー行進曲」等、アンコール曲含めてクラシックの名曲を4曲演奏して終了しました。



バッハ、モーツァルト、ベートーヴェンなど有名な作曲家の曲を中心に演奏しながら、私たちの身近な音楽と融合させることでクラシックの素晴らしさを感じさせてくれました。音楽って様々な工夫をすることで楽しくなり、心ほのぼのとさせてくれるのだなと思いました。さすが音楽実験室だと実感して帰ってきました。参加児童もきっと満足して帰ったことと思います。

今回の第5講をもって、今年度のチャレンジクラブは終了です。コロナ禍の中、十分な活動はできませんでしたが、次年度も工夫しながら活動していきたいと思っています。